

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800329		
法人名	社会福祉法人 恵の園		
事業所名	グループホームさつき		
所在地	群馬県渋川市渋川3646-4		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があっても「その人」らしく毎日を過ごしていただけるよう支援をしています。アセスメントとして「掘り下げシート」の活用を図り「その人」の理解に努めている。健康状態の把握や早期発見のために毎日3回血圧・脈拍・体温測定を実施している。14時～16時、1人月1回を目安に個別支援の時間を取り入れている。利用者さんのニーズに対し外出や散歩、買い物、理美容、趣味や居室の様様替え、等の支援を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「毎日をたいせつにサポートします。」という理念のもと、「パーソンセンタードア」というその人の世界に入っていくという立場に立ち、利用者の行動や言葉の背景にある気持ちを探る「掘り下げシート」を活用して本人を理解する支援を行っている。事業所内は日当たりも良く、落ち着く家具や植物・利用者の作品が掲示され、職員の和やかさも相まって家庭のような雰囲気となっている。また、災害対策には熱心に取り組み地域の自衛団との連携をとり、年2回の防災訓練では消防署の指導の下、発煙筒を焚いて避難路の確認をしたり、夜間を想定した訓練が行われている。推進会議で出た意見にも迅速に対応し、スプリンクラーの設置やガスコンロからIHヒーターへの導入、避難スロープの設置などを柔軟に取り入れよりよい支援をがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の実践として地域密着型サービスの意義を踏まえた基本方針をつくり、それを事業計画に入れ全職員に配布している。また館内掲示・施設パンフレットにも掲載をし、実践をしている。	法人の理念を基に「グループホームさつき」の基本方針「毎日を大切に過ごしたいをサポートします」をたてて、玄関やパンフレットに掲示している。また、月1回「創立時の精神を学ぶ会」が法人全体を対象に行われ、管理者から理念などについての話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事を通じて、事業所として地域との交流を定期的に行っている。また、地域の清掃活動の参加や公民館での趣味教室の参加も行っている。	法人主催のバザーや納涼祭を行い、近隣の方に参加して頂いている。また、利用者は地域の清掃活動に参加したり、公民館の趣味の教室にも参加している。自治体主催の高齢者の集いにも参加を検討しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修で学んだ認知症の人の理解や支援の方法を、法人の機関紙や事業所の機関紙にレポートとして掲載した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の避難方法として簡易型スロープの設置についてアドバイスを頂き、設置した。	2ヶ月に1度の運営推進会議の日程については、年間スケジュールを作成し、参加予定が立てられるよう配慮している。会議では活発な意見が出され、災害時の避難スロープが設置されるなど、意見を活かした取り組みが行われている。会議録は詳細に記録し、上司に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類については極力持参して、顔を合わせること心にかけている。その他の必要事項や運営上の疑問について電話連絡やメールにて連絡を密にしている。	電話やメールを密にしているが、出来る限り足を運び直接話をするよう心にかけている。市のホームヘルパー養成事業の講師に招かれたり、法人独自の事業では講師の紹介をして頂いたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が正しく理解できていないが、拘束の対象となる方はいない。玄関は夜間の防犯上の施錠を行っている。	現在身体拘束を必要とする方はなく、日中は玄関はじめホール・居室は開錠のままである。職員は身体拘束廃止の研修会に参加し、伝達をしている。報告書は事業所内で共有し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	倫理綱領・職員行動規範・重要事項説明書等に掲載している他、館内掲示も行っている。また、外部研修でも学ぶ機会があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行われている研修等で学ぶ機会がある。後見任については必要性のある方を役所に相談し進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年1回の家族懇談会(法人内)、面会時等家族と交流する際には、利用者状況を伝え、コミュニケーションを密にして日々の支援に生かしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の連絡先を玄関に掲示している。日々利用者とコミュニケーションを取る中で、不満・疑問を掴み取り、それを改善に向け対応している。	苦情相談窓口を運営規定に載せている他、玄関にも掲示している。これまでに苦情や不満はなく、質問には速やかに返答し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケースカンファレンス・職員会議を定期的実施し、意見・提案等を検討している。	毎月1回の職員会議は、意見が出しやすい雰囲気の中で行われ、アドバイザーとして上司も参加している。職員からの意見は集約したうえで次年度の計画に組み入れている。現在、1泊の温泉旅行が検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Do-CAPシートを活用して、年2回自己の振り返りが出来るように成されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は法人内の人材育成係でもある。極力全員が参加できるよう勤務調整を図り、全体研修・現任研修の他、外部研修にも参加できるよう対応を図っている他、受けてみたい研修があれば相談後に検討することを伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長や職員が地域密着型サービス連絡協議会やその他の会合・研修等で交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からこれまでの生活状況を聞き、その後の生活支援・介護に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後、入居に至るまでの期間に家族から生活歴・生活状況・既往歴等を情報収集し、その後の支援・介護に繋げるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々一緒に生活をしていく中で、利用者から様々なことを学んだり、楽しんだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日帰り旅行への参加を促したり、年1回の家族懇談会の他、支援・介護上必要時には電話連絡等をし、常にコミュニケーションを図り、本人の支援に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報収集・本人とのコミュニケーションから情報を収集し、個別支援・個別外出等で馴染みの場所等へ出掛けている。	利用者の殆どが長い間同法人の別事業所で生活してきた方であり、法人のコミュニティーとなっている中では馴染みの人が多い。毎日午後には1対1の個別支援を行い、買い物・花見・墓参りなど本人の希望する馴染みの場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間に集えるよう声掛け・配慮し、状況により見守り・仲介をし、個々人の性格・言語能力等を考慮し、コミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移行した方で、必要な方には機関誌郵送等をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き、ケアプランに反映させ、支援を実施している。困難な場合にはケースカンファレンス・職員会議等で検討をし、本人本位となるよう考慮している。	「パーソンセンタードケア」というその人の世界に入っていくと言った考え方を基に、掘り下げシートを使い利用者の言動や行動から思いや意向を推察し、職員が皆で考え判断していくと言った支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴等を情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌・個別健康記録・業務日誌等で職員間の連携を密にし、申し送りを徹底して対処している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケースカンファレンス・職員会議等で検討をし、ケアプランに反映させている。ケアプランの変更についてご家族に報告とともにご意見もいただいている。	定期的なケアカンファレンスに家族の参加はなかなか望めないのが現状であるが、追加項目や変更になった項目については報告をしている。「掘り下げシート」を使いモニタリング・ケアプラン作成し、毎朝計画を読み上げ職員が内容を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌や業務日誌等の記録をNDソフトにて管理し、モニタリングやケアプランにリンクさせ見直しとしても活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の不穏状態による無断外出や帰宅願望について、本人と一緒に付き添うことや、ドライブ、突然の日用品不足による買い物ニーズ等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の料理教室、陶芸教室等、ご本人のニーズやレベルに応じて参加をして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人と検討した上でかかりつけ医を決め、定期的な通院対応の他、緊急通院対応もしている。	本人と家族の意向で、かかりつけ医を決めている。通院は月7回程度、市内の病院へ事業所の職員が送迎している。また、月に1度の往診のほか緊急時には訪問看護の利用も行っている。受診結果は、その都度家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護への申し送り表を作成し情報を共有しているほか、通院、緊急の判断や相談等は常に連絡が取れるように整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の面会時に状況を看護師から直接聞き、疑問に思ったことは看護師や担当医師へ質問したりと早期退院にむけて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはその殆どが入院であり、特別対処は現在していないが重度化した際の各事項に関わる指針を作成し方針を訪問看護ステーションや職員、家族と共有している。	現在終末期ケアの対象者はいないが、重度化した際の指針を作成し家族の同意を得ている。職員はターミナルケアの研修会に参加し勉強はしているものの、実際に看取りまで行う場合の抵抗は感じている。	重度化した際の指針があり、医療機関・訪問看護等も充実していることから、今後終末期ケアについて受け入れが出来るよう更に勉強会を重ねていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修等で学んでいる。また想定され得る事柄を申し送り、緊急時に対処できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練への参加により、意識を高めている。また近隣の施設・病院・地域の自警団との連携も成されている。法的な強制力はなかったが、簡易スプリンクラーの設置を行う。運営推進会議にて防災訓練見学を実施した。(消防署も参加)	消防署の指導の下、日中と夜間を想定した訓練を年2回行っている。訓練では発煙筒を焚いて風向きよっての避難口も検討している。近隣の自警団との連携も出来ている。スプリンクラー・IHヒーター・避難スロープの設置をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に応じ、利用者の前での申し送り時には隠語を使用する等工夫し、プライバシーの確保に努めている。	排泄関係での職員同士の会話には、排尿のことをハルンなどといった隠語を使い、プライバシーの確保に努めている。また、言葉かけも敬語を使い、本人の誇りを損なわないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状況に応じ、二者・三者択一型の質問や、筆談等工夫し、一人一人のニーズが表出できるよう配慮し、対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の身体・精神状況を見ながら対応をしているが、職員の勤務状況により、希望に沿えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から1歩外に出れば社会である、ということ職員に意識させ、身だしなみ等配慮している。美容院等は希望により送迎等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れた献立、身体・精神状況を見ながら調理準備等していただいている。また日中活動の中に食事準備を取り入れて計画的に行っている。	利用者の希望を取り入れた献立表を職員が作成し、調理は毎回2名ずつの利用者が一緒に行っている。食事の準備は、ケア計画にも組み入れている。穏やかな雰囲気の中、職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の健康状態に合わせて、主食の量を調整している。チェック表を利用し、一日の食事、水分の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・介護等の対応を図っている他、介護者は個別健康記録に記録をし、漏れの無いようにしている。また年1回歯科検診を受け、結果等記録を保存している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況を見ながら、プライバシーにも配慮し排泄対応をしている。またその内容を個別健康記録に記録を取ることで排泄パターン等を掴み、その後の支援にも生かしている。	排泄パターンを掴みトイレ誘導を試みるなど、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	イレウス予防のために繊維質の多い食材や刺激の少ない食材を表にして職員が把握している。また、慢性的な腸閉塞の方を中心に、それらの食材が入らない献立を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院や行事等で曜日を替えることもあるが、希望やタイミングに合わせる等、出来る限り本人の希望を尊重している。	週2回を基本としているが、本人の希望で毎日でも入浴できる。また、夜間の入浴も可能で夏に向かうと夜の希望者が増えるとのことである。季節の菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、車いす上で過ごしている方は、健康状態を見ながら昼食後にベッド上での休息時間を設けている。また、居室には寒暖湿度計を設置し快適に過ごせるように職員が空調管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧ファイルを設け、全員の内服薬の用法・副作用等分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事・レクリエーション・旅行等の実施はできている。庭仕事や農園の手入れ、料理等の支援をし、喫煙や飲酒の習慣のある方には健康を害さない範囲で提供している。また調理や掃除等を職員と一緒にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援・外出支援・旅行の他、希望時にも対応をしている。	午後の2時間1対1の個別の支援時間を設けている。その中で個々の希望に沿った買い物などの支援を随時行っている。また、庭での園芸や菜園なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じ、自己管理・職員管理を家族了解の上対応している。また小遣いの手渡し、買物時に金銭のやり取りを見守る等状況に応じ、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な方にはダイヤルをしてから受話器を渡す等支援している。また補聴器をうまく使い耳が聞こえにくい方への対応も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう観葉植物・掲示物・その他採光等もより暖かい光の物を使用し、対処している。	日当たりの良い落ち着いたホールには食器棚が置かれ、自宅のリビングのような居心地を感じさせる。利用者の作品を飾り、随所に観葉植物や花が置かれていて温かみがある。冬の間はこたつを置き、利用者の歓談の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には独りになれる空間はないが、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で長い間使用してきた物等馴染みのある物を持ち込んでいただき、本人・家族と確認しながら家具・掲示物等対処している。ADLに応じて時折配置替え等もしている。	本人の使い慣れた筆筒や仏壇が暮らしやすいように配置されている。家族などの写真や絵手紙が飾られている。全室に加湿器が置かれ、健康にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は段差を無くし、必要箇所には手摺や跳ね上げ式手摺を整備してある。		